

中京区・社会福祉法人の

# 「地域における公益的な取組」

つながりの実践レポート

社会福祉法人 なづな学園

かしの木学園

社会福祉法人 京都ライトハウス 盲養護老人ホーム

ライトハウス朱雀

社会福祉法人 白百合会

リ・ブラン京都 中京

特定非営利活動法人 ユースサポートネットとも

アトリエとも

社会福祉法人 七野会

生活支援総合センター 姉小路

社会福祉法人 あだち福社会

御所の杜ほいくえん

「地域における公益的な取組」



[発行] 令和5年9月 中京区地域福祉推進委員会

## はじめに

中京区地域福祉推進委員会では、区内の福祉施設と地域との公益的な取組の活動事例を集約させていただき、その好事例をレポート集としてまとめました。

社会福祉施設の強み活かしながら地域とのつながりの取組を多くの方にしてもらえれば大変嬉しく思います。地域での取組や関わりの中から芽生える出会いや参加、関わりが「みんながふれあい つながり ささえあう 中京のまち」の実現につながっていきます。コロナに負けず、みんなの笑顔の輪が中京区を中心に広がっていきますように。

最後に、本冊子の作成にあたりまして施設関係者の皆様には取組の取材・校正等で多大なご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

中京区地域福祉推進委員会

取組実践

1

# かしの木学園

取組を発信。  
 アート作品の展覧会。  
 商店街で施設の  
 お店から提供いただいた  
 廃材を使った

朱八学区の中京区の西南端にある、多機能型事業所です。常設店舗にベーカリー・どんぐりも併設しています。昭和45年に京都市に於いて最初の公設民営施設として設立し、平成23年に設置主体を「社会福祉法人なづな学園」に移管し、民設民営での運営を進めることになりました。障害のある方が豊かな社会生活に営むことができるよう、生産活動及び創作活動、更には社会就労の機会の提供を通して知識、能力の向上のための支援をしています。



「福祉施設と地域とのつながり取組事例集」の取材をきっかけに「施設から地域へ活動を広げたい。展覧会の会場をどこかご紹介いただけないでしょうか」と、区社協に相談したところ京都三条会商店街コミュニティホールをご紹介いただき、令和4年6月には「かしの木学園×スタジオぐるり “ぐるぐるころころ”」を開催することができました。このイベントでは、三条会商店街のお店から出るハイザイ（廃材）をテーマにアート作品をメイン展示し、期間中には廃材や端材をテーマにさまざまな人たちが集える場を作っている「スタジオぐるり」のワークショップ、嵐山で2022年春にオープンした週イチカフェの初屋台出店も実現しました。開催にあたり、京都三条会商店街振興組合のみなさまには会場提供のみならず、廃材回収のお声掛けやチラシ掲載等開催へ向けて力強いご支援をいただきました。また、私たちの企画に賛同いただき、一緒に盛り上げてくださった三条会商店街店主のみなさまに感謝の想いです。

このような取組を通して、多くの方に福祉施設の活動を情報発信することが出来ました。これからも地域のみなさんと一緒に楽しむことを大切に、中京の地で活動をしていきたいと思ひます。





## 2

## ライトハウス 朱雀

セラピー犬の訪問で笑顔が満開。  
施設とボランティアグループとの取組

朱四学区にある視覚障害という共通のハンディを持つ人たちが、安心して明るく充実した高齢期を送っていただけるような援助に努めています。盲養護老人ホーム船岡寮が2016年に西大路三条へ移転し、「視覚障害高齢者にやさしい施設」として新たに特養、デイサービス、ケアプランセンターのサービスを開始。名称も高齢者総合福祉センターライトハウス朱雀へ改めました。今回、施設開所6周年の記念事業で利用者に喜んでいただける企画はないかと職員間での検討を重ねた結果、「ドッグセラピー」が実現しました。



コロナ禍でここ数年施設ではボランティアの受入れができず、利用者自身も外出ができない状態が続いていました。状況が緩和してきた令和4年春の記念事業では利用者の喜んでいただける心に残ることができないかと、当初は「アニマルセラピー」を探していましたが、条件があうところがなかなか見つかりませんでした。検索していくうちに「ドッグセラピー」の活動を知り、同じ中京区を拠点としている団体（認定NPO法人アンビシャス）があることを知りました。

アンビシャスは、糖尿病患者病棟への訪問や聴覚言語障害者センターなどでも活動をされている団体です。のちに中京区ボランティアグループ連絡会にも所属されていることもわかりました。記念事業の当日は、アンビシャスのメンバーとセラピードッグ16匹が、特養・ショートステイ・盲養護老人ホーム・デイサービスに訪問していただき利用者との交流が実現しました。

コロナ禍で特養と盲養との部署を越えての取組は中止していましたが、今回の取組は全館が一つとなって共通の温かみを感じることができました。利用者のこれまで見たことのない表情をみることもできました。中には、セラピー犬との別れを惜しむ方もおられました。施設に関わる全ての人が笑顔になれたそんな時間でした。一方でアンビシャスも「セラピードッグの活動を通じて、みんなの気持ちたちがほぐれて笑顔になっていく様子を体感できることこそが、私たちの活動の原動力」と話されます。今後も施設は利用者以外の空気に触れていただく機会をつくっていきたい。利用者や地域が喜ばれる場面を増やしていきたいと思えます。



## リ・ブラン京都 中京

## 小学生を対象にした食事支援と学習支援の取組

本能学区の三条通り油小路塩屋町にある、カフェとハンドメイド雑貨店舗を併設した就労継続支援B型の事業所。からだに優しい焼き菓子、手刺しゅうの小物、手織物を製作販売しています。平成29年から月曜日と水曜日の夕方に小学生を対象した食事と学習の支援「セカンドテーブル」（定員10名・登録制）を開催しています。



セカンドテーブルの参加する子どもらは、チラシとポスターの他に地元民生委員から気になる方へお声かけなどご支援いただきながら、本能学区・明倫学区・朱一学区からも来られています。この取組は地域をはじめ企業や商店・学生など多くのボランティアに関わっていただきながら歩んできました。

平成29年から続けてきたセカンドテーブルの取組を通して見えてきたのは、今の取組では対象者が小学生と限定されてしまうことから小学校卒業後に関わりが途切れてしまうことが課題として浮かび上がってきました。現状では中学生を対象にした食事支援と学習支援の受け皿は少なく、そのような課題に施設として何かできないかと法人内で検討を重ねたところ「中学生に対する学習支援事業」と、地域で子どもたちを見守る「コミュニティ・カフェ」を地域公益的取組として今年度の事業計画に掲げました。今後は、その取組内容を含めて地域と共に創り上げていきたいと思えます。



## 4

## アトリエとも

まちの小さな本棚・まちライブラリー  
本をきっかけにしたつながる取組

日彰学区の蛸薬師通烏丸を東に入ったところにある、就労継続支援B型の事業所です。ここでは折箱やシール貼りなどの軽作業や製菓作業、カフェ運営、オリジナル商品の製作など、さまざまな仕事を通して障がいのある方を支援しています。アート活動などにより仕事をつづける活力を支える場の提供も行っています。様々な困難により社会との繋がりが希薄になっている方たちに、居場所を提供し、他者とのコミュニケーション、さらには社会との繋がりを取り戻せることを目指して活動しています。



「まちライブラリー」とは、本を置く場所をつくって、地域の方に本を寄贈してもらい、その本を貸し出すことで繋がりをつくっていくという活動です。全国各所で約800カ所近い「まちライブラリー」が展開されています。ユースサポートネットともでは、このライブラリーをアトリエとものカフェに併設することで、福祉施設、障がいのある方、地域との繋がりを作ることを目的としています。カフェを利用されるお客さんに、この活動を通じて施設にも興味を持ってもらうことも狙いとしています。

アトリエとも「まちライブラリー」では、寄贈いただいた方に、本に挟むカードに本の紹介を書いてもらい、借りた人も同じカードに感想を書けるよう工夫を施しています。本を通じて感想などの気持ちが共有できる仕組みです。アトリエともを利用されている方には、コミュニケーションを苦手にして思われる方が多数おられます。直接自分の言葉を伝えることが難しくても、ゆっくり考えて、自分の気持ちを言葉にして他者に伝えられる機会をもつことで、人との繋がりを感じてもらえる場となっています。





社会福祉法人 七野会

生活支援総合センター

# 姉小路

5

認知症への理解を深め、支えあう地域づくり

## 認知症カフェ『姉カフェ』

「わあ、とても素敵な作品ができたわ!」と、社会福祉法人七野会 生活支援総合センター 姉小路が5月に開催した認知症カフェ「姉カフェ」に参加した高齢者らから歓喜の声が会場全体に広がりました。

中京区城異学区にある施設「姉小路」は、高齢者のグループホームとデイサービスセンター、居宅支援事業所等を併設する施設です。法人の理念である「その人らしく暮らし続けられることを支援する」「地域に開かれた施設でありたい」との思いから2014年に「姉カフェ」を立ち上げました。当時は在宅で生活をされている認知症初期の方が社会参加できる場所が少なかったことから「姉カフェ」という場をつくることで、これまで施設が培ってきた認知症に関する知識を活かしながら施設を利用する方やその家族の方や地域の方が自由に出入りできて気軽に立ち寄れる居場所になればと取組んでいます。コロナで開催ができない月もありましたが、この春からようやく再開することができました。

「姉カフェ」では、基本 笑いヨガを通して笑うことの大切さを参加者と一緒に楽しんだ後に喫茶でお話しやゆっくりとした時間が過ごせます。カフェを担当する施設職員さんは「カフェが再開できたことを地域の方にもお知らせしていきたいです。以前のように家族介護での悩みを相談したり、息抜きしたい方や認知症初期の方で外に出る機会が減って社会交流を図りたい方など身近な地域の憩いの場として活用していただければ嬉しいです」と話されます。5月の「姉カフェ」は、笑いヨガの指導者がお休みだったために創作活動を楽しみました。参加者や職員さんらができあがった作品を眺めながら、おしゃれなカップに注がれた温かいコーヒーをいただきながら談笑するととても居心地のよい時間となりました。認知症の方との接し方や今後の不安など、個別の相談についても対応していただけます。気になることがあればお気軽にご相談ください。



### 姉カフェ

住 所 中京区堀川通姉小路下ル姉東堀川町76  
 連絡先 075-257-3867  
 開催日 第3木曜日(変更する場合あり)  
 開催時間 13:30~15:15  
 場 所 生活支援総合センター姉小路1階サロンひだまり  
 参加費 300円



## ライトハウス 朱雀

コロナ禍で気づいた日中活動の大切さ。  
ボランティアとの交流で笑顔咲く。

視覚障害というハンディを持つ人たちが、安心して明るく充実した高齢期を送っていただけるよう西大路三条（朱四学区）に特別養護老人ホーム・デイサービス・ケアプランセンターを併設する『高齢者総合福祉センター ライトハウス朱雀』があります。「コロナ禍でこれまで利用者が楽しみにしていた日中活動が中断となり地域やボランティアと交流できない時期が続きましたが、昨年度は中京区ボランティアセンターを通じて紹介いただいたボランティア団体と交流したところボランティアと楽しそうにお話しされる利用者の笑顔がとても素敵で改めて日中活動の大切さを再確認した」と施設職員さんは話されます。

そして、今後の取組みについて検討する中で、視覚にハンディを持つ利用者が声に出して詩や文章を読む・聴く（朗読）を通して見えてきた想いや感想を語り合うような場ができないだろうか、再び区ボラセンに相談をしたところ “SKY読み聞かせ・朗読ボランティアサークル「こもれび」” と出会いました。「こもれび」は京都で高齢者のいきがづくりやボランティア活動を支援する京都SKYセンターに登録しているボランティアサークルで昔話や創作童話などの朗読を“小さな贈り物”として届ける活動をしています。今年3月に「ほっこり朗読会」と題した日中活動を試行的に取り入れたところ参加者から「とてもよかったよ。次はいつ？」との声を多くいただいたことから定例での開催を決定しました。



今年度最初の開催となった4月24日の会には利用者ら14名が集まりました。「こもれび」指導講師の日向さんは「以前から、目のご不自由な方々へ『朗読』を贈りたいと思っていましたがなかなかご縁がありませんでした。でも今回施設からオファーをいただき私たちも施設利用者さんと過ごす時間がとても楽しみです」と話されます。コロナ禍を期に改めて出会いの場の大切さと、施設とボランティアとのつながりが利用者を含めた3者の笑顔につながっていることがこの取組みから伝わってきました。





# 御所の杜ほいくえん

地域で子育てを頑張る親御さんと子どもたちに寄り添い・支えたいとのほいくえんの想いに賛同した企業や専門職からも協力し、初めての「夏祭り」を開催しました。

## コロナに負けず夏らしいこといっぱい楽しもう 『夏祭り』の開催

中京区の柳池学区にある「御所の杜ほいくえん」は、2018年4月に開園。市内中心部に位置する施設周辺は、医療機関や教育機関、高齢者施設等の支援機関があり、交通アクセス、買い物環境もよいことから学区外から転居してくる方も多く子育て世帯にも人気の地域です。

利便性が高い地域である一方で、中京区の地域課題ともいわれるマンション居住率の高い地域でもあり、住民同士が気軽につながれる・参加できる取組は、身近な地域で顔の見える関係を築く上でとても大事です。

施設開園から5年が経過した2023年8月。もっと地域の方々にも気軽に立ち寄ってもらえるような開かれた施設でありたいと、人と人がつながれる・参加した人みんなが笑顔になれる催し「夏祭り」を開催しました。

「地域の方々にも立ち寄ってほしい…」との想いで在園児だけでなく、地元自治連合会にもご協力いただきチラシとポスターを配布、近隣の竹間学区や富有学区、初音学区、柳池学区の子育て世代や近くの子育て支援施設に通う方にもご参加いただきました。

このような地域や施設の協力により二次元コードを使った事前申込では総勢260余名の申込があり、多くの方々には足を運んでいただくことができました。



夏らしいイラストの「夏祭り」のチラシ



午前の部の開始早々から1階ホールには大勢の参加者が来場



1階の広いホールの高い天井にも、夏祭りらしい飾り付けが随所にみられます。



もう一つのねらいにある「人と人がつながる・参加した人みんなが笑顔に…」では、施設に関わるすべての職員が一体となって創れたことが大きな成果です。タコつりやガチャつり、指人形すくい、的当て、親子工作、ボーリング、ワニワニパニックなど幼い子どもも楽しめる取組みの他、施設入口での安全誘導に至るまで参加する人（親子）が笑顔になれる取組みがいっぱい詰まった「夏祭り」となりました。

また、今回の催しでは、持続可能な世界の実現に向けたSDGsを身近に感じられる取組みとして、無印良品京都山科で展開している読まなくなった絵本の交換会「つながる絵本」や、上京区に事務所を構えるゆめ工房（小児用補装具専門）による足と靴の相談会もおこなわれました。絵本の交換会に参加した未就園児のお子さんと参加した保護者は、「大切に読んだ絵本がまた次の子どもたちにつながればうれしいです」と嬉しそうに話されました。



どのコーナーも担当する職員さんが参加者ひとり一人に寄り添いながら、楽しみながら丁寧に関わりをされているのが印象的です。

体験ゲームだけではなく、親子工作うちのワークも。



株式会社良品計画（無印良品）による読まなくなった絵本をつなぐ絵本の交換会（事前エントリー）

株式会社ゆめ工房によるこどもの足と靴の相談会（午前・午後1回ずつ開催 参加無料）

地域における公益的な取組

つながりの実践レポート

御所の杜ほいくえん

住所 中京区柳馬場二条下る等持寺町15

連絡先 075-257-3500

